



# KARIBIB の回想



2023 年度 1 次隊/数学教育/渡辺 崇人

2024 年 11 月 11 日 Vol.19(番外編)

## 【前編】

「まだたすかる、まだたすかる、まだたすかる... マダガスカル。ソ～レ、ここ！マダガスカル!!」ということで、本日紹介するのはアフリカ大陸南東部の海岸から西インド洋沖へ約 400km 離れた場所に浮かぶ島、マダガスカル共和国です。冒頭はとある芸人さんの有名なネタ中のセリフですが、学祭でお目にしてから少しファンになりました（笑）。ネタを見ていた当初は、地球儀を回してマダガスカルの場所を指されてもあまりピンと来ず、何となく笑っていましたが、まさか数十年の時を経て実際に来ることになるとは露ほども思っておりませんでした...。今回のマダガスカル編は、前編と後編の 2 回に分けてご紹介します。

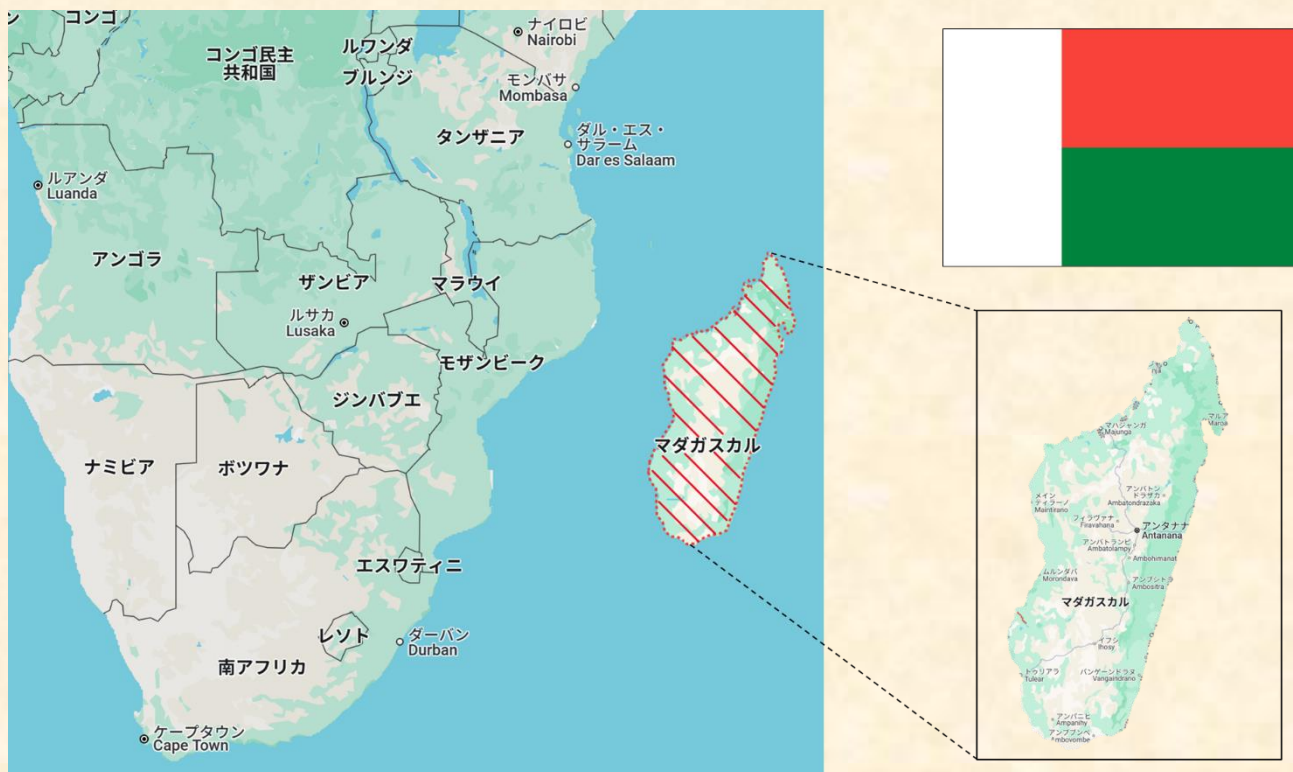


図 1：マダガスカルの地形図（国旗は [https://en.wikipedia.org/wiki/Flag\\_of\\_Madagascar](https://en.wikipedia.org/wiki/Flag_of_Madagascar)）

### ●基礎データ（外務省「マダガスカル基礎データ」より）

|    |                                     |
|----|-------------------------------------|
| 面積 | 58.7 万 km <sup>2</sup> （日本の約 1.6 倍） |
| 人口 | 2,961 万人（2022 年）                    |
| 首都 | アンタナナリボ                             |
| 言語 | マダガスカル語、フランス語（共に公用語）                |

図1から分かる通り、日本と同じく周りを海に囲まれたこの国ですが、面積は日本の約1.6倍あり、オーストラリアを除いて世界で4番目に大きい島と言われています。また、8000万年以上前に大陸と切り離されたこともあって、独自の進化を遂げた不思議な生物が多いことでも有名です。そのためか、映画『マダガスカル』では色々な動物が出てきますね。まずは、この記事をお読みになっている方で同国を旅行先としてお考えの方向けに、現地の隊員から聞いた話や実際に訪れてみて感じた注意点ををご紹介しますね。

## 渡航する前/した際の注意点

### 1. ベストシーズン



図2：首都アンタナナリボからバオバブ街道のあるムルンダバまでの陸路



写真1：上空から見たマダガスカル



写真2：赤土の道

ずばり、ベストシーズンは4～10月（乾季）です。と言いますのは、どこに行くのかにも依りますが、バオバブ街道といった有名な観光地に行くためには、国際空港のある首都アンタナナリボから図2のように都市間移動をしなければいけません。しかし、そういった都市間の道というのは写真1、2のように未舗装の赤土が多く、またバオバブ街道自体も写真で見たことがある人は分かると思いますが未舗装です。そのため、12月付近の雨季に訪れると、悪路という問題が発生します。ここが気にならない場合は特に問題ありませんが、迷われている方は乾季での渡航をオススメします。

### 2. マダガスカルエアライン（国内線）の突然の運休

1で紹介した通り、未舗装の道が多いという事に加え、道中で武装強盗集団に遭遇する可能性があるという治安上の問題もあり、JICA ボランティアは都市間移動が空路のみという制限があります。しかし、この国内線もやや問題があり、国内の全空港間を実質2、3機で巡回しているため（° o °）、1機が故障した際の全体への影響が甚大で、当日の急な運休が頻繁にあるそうです。隊員でこれに巻き込まれた人も過去にいました。そのため、空路で移動される場合は、万が一の突然の運休に備えた“プランB”があると安心です。

### 3. 長袖の携行



写真3：タクシーベ

1で紹介したベストシーズンのうち、特に観光客の多い7、8月は冬であるため、首都の夜はかなり冷え込みます。そのため、長袖の携行は必須です（しかし、ムルンダバは冬でも暑かったです。まるで北国から沖縄にきたような変わりようでした。行ったことありませんが...）。ただ、それ以外にも必要な場面があります。それが首都内の乗合移動バスの車内です。首都内の移動は『タクシーベ』と呼ばれる中型の乗合バスで移動しました（写真3）。補助席も使用してとにかく満員で運行します。ただし、座席には高確率でダニがおり、肌を露出しているとほぼ確実に噛まれます。自分は長袖を着用していても噛まれましたが、半袖だともっと酷かったと思います。そのため、これに乗車する場合は長袖の着用を強く推奨します。

### 4. スリ

特に首都です。過去には何人も隊員が被害に遭い、皆気付いた時にはスマホが無くなっていたとのことです。そのくらい手口が巧妙なため、特に人ごみの中や写真撮影等でスマホを取り出す時は周囲にご注意ください。

### 5. 公用語がマダガスカル語とフランス語



写真4：レストランの看板

ここは旧フランス領であるため、公用語がマダガスカル語とフランス語です。そのため、レストランの看板も写真4のような形で、フランス語が堪能な方は問題ありませんが、僕には何が出てくるのか全く見当がつかず（笑）。また、首都ならフランス語が使えるため、辛うじて Google 翻訳等使えますが、地方になるとマダガスカル語しか通じないなんてことも。。それでも一人旅中の日本人に何人か会ったため、最後はどうにかなると思われませんが、英語が通じる場面がほぼないということは心構えとしてあってもいいかもしれません。余談ですが、料理は何を食べても外れがないと自信をもってオススメできるほど美味しかったです。

### 6. ボランティア

首都アンタナナリボには、丘の頂上に写真5のような The Rova というかつての女王宮があり、現在は博物館（庭園のみは無料、建物内は有料）となっています。行くと、入り口に「ボランティア」で案内してあげるといふ人が数名います。彼らはオフィシャルな博物館保全の団体に所属しているようですが、中には案内の最後に人気のない所に連れて行って、高額なチップを要求してくる人も。そのため、ボランティアという言葉のイメージだけを妄信しないことです。写真5：The Rova（女王宮）

